

福島第一原子力発電所の状況

平成 23 年 12 月 9 日
東京電力株式会社

<タービン建屋地下のたまり水の処理>

高濃度の放射性物質を含むたまり水の処理設備及び貯蔵設備の状況

[処理設備]

- ・6/17 20:00 放射性物質除去装置の本格運転を開始。
- ・6/24 12:00 淡水化装置(逆浸透膜型)における処理を開始。
- ・6/27 16:20 循環注水冷却を開始。
- ・8/7 16:11 蒸発濃縮装置の本格運用を開始。
- ・8/19 19:33 第二セシウム吸着装置(B系ライン)を起動し、セシウム吸着装置および除染装置との並列運転によるたまり水の処理を開始。19:41 定常流量に到達。

[貯蔵設備]

- ・6/8～ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付。

トレンチ立坑・各建屋地下のたまり水の移送状況

号機	排出元 移送先	移送状況
2号機	・2号機タービン建屋 集中廃棄物処理施設[雑固体廃棄物減容処理建屋(高温焼却炉建屋)]	・11/30 18:03～移送実施中
3号機	・3号機タービン建屋 集中廃棄物処理施設[プロセス主建屋]	・11/15 9:25～12/5 10:31
6号機	・6号機タービン建屋 仮設タンク	・12/8 10:00～12/9 16:00 移送実施
移送先		移送先の水位状況 (12/9 7:00 時点)
プロセス主建屋		水位: O.P.+ 2,036 mm(水位上昇累計:3,253 mm) 12/8 7:00 から 107 mm 下降
雑固体廃棄物減容処理建屋 (高温焼却炉建屋)		水位: O.P.+ 1,213 mm(水位上昇累計:1,939 mm) 12/8 7:00 から 52 mm 下降

トレンチ立坑・タービン建屋・原子炉建屋の水位 (12/9 7:00 時点)

	トレンチ立坑	タービン建屋	原子炉建屋
1号機	O.P. <+ 850mm (12/8 7:00 と同じ)	O.P.+ 3,667 mm (12/8 7:00 から 32 mm 上昇)	O.P.+ 4,012 mm (12/8 7:00 から 55 mm 下降)
2号機	O.P.+ 2,819 mm (12/8 7:00 から 23 mm 下降)	O.P.+ 2,839 mm (12/8 7:00 から 21 mm 下降)	O.P.+ 2,969 mm (12/8 7:00 から 21 mm 下降)
3号機	O.P.+ 3,251 mm (12/8 7:00 から 17 mm 上昇)	O.P.+ 3,017 mm (12/8 7:00 から 18 mm 上昇)	O.P.+ 3,241 mm (12/8 7:00 から 20 mm 上昇)
4号機	-	O.P.+ 3,007 mm (12/8 7:00 から 22 mm 上昇)	O.P.+ 3,022 mm (12/8 7:00 から 32 mm 上昇)

<放射性物質のモニタリング>

海水核種分析結果(参考値)

採取場所	採取日	採取時間	濃度限度比(倍)		
			ヨウ素-131	セシウム-134	セシウム-137
福島第一 5,6号機放水口北側約 30m	12/8	8:55	ND	0.10	0.07
福島第一 1～4号機放水口南側約 330m	12/8	8:35	ND	0.04	0.04

・その他、福島第一原子力発電所沿岸 2 地点(12/8 採取分)、沖合 7 地点(12/7 採取分)における主要 3 核種(ヨウ素-131、セシウム-134,137)は全て ND。

<使用済燃料プールの冷却> (12/9 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中(8/10 11:22~)	14.5
2号機	循環冷却システム	停止中(12/7 4:17~)	27.4
3号機	循環冷却システム	運転中(6/30 18:33~)	15.7
4号機	循環冷却システム	運転中(7/31 10:08~)	22

[4号機]・11/29~ 使用済燃料プールの塩分除去のため、イオン交換装置の運転を開始。

・12/9 9:28~11:58 使用済燃料共用プール設備に使用している電源盤の交換工事を実施するため、使用済共用プールの冷却を一時的に停止(停止時使用済燃料共用プール温度:約 18.8、再開時:約 19.1)。

<原子炉压力容器への注水・原子炉の状況> (12/9 11:00 時点)

号機	注水状況	給水ノズル温度	原子炉压力容器下部温度	原子炉格納容器圧力
1号機	淡水注入中 (給水系:約 4.3 m ³ /h)	43.3	44.5	110.6 kPaabs
2号機	淡水注入中 (給水系:約 2.9 m ³ /h, 炉心スプレイ系:約 4.2 m ³ /h)	71.6	71.3	114 kPaabs
3号機	淡水注入中 (給水系:約 2.1 m ³ /h, 炉心スプレイ系:約 6.0 m ³ /h)	59.7	66.8	101.6 kPaabs

[1号機]・12/9 10:13 原子炉への注水量について、注水量の減少が確認されたため、給水系からの注水量を約 4.2m³/h から約 4.5 m³/h へ調整。

[2号機]・12/8 16:15 窒素封入設備が停止した場合に、原子炉压力容器内の水素が可燃限界に達するまでの時間の余裕を確保する観点から、原子炉压力容器への窒素封入量を上げる操作を実施。一方、原子炉格納容器は压力容器ガス管理システムにより水素濃度が可燃限界に達する時間には十分余裕があることを確認できていることから、窒素封入量を下げる操作を実施。原子炉压力容器内への窒素封入量を 13 m³/h から 14.5m³/h に、原子炉格納容器への窒素封入量を 20m³/h から 16.5m³/h に調整。

・12/9 10:13 原子炉への注水量について、注水量の減少が確認されたため、炉心スプレイ系からの注水量を約 4.2m³/h から約 4.5 m³/h へ調整。(給水系からの注水量は約 3.0 m³/h で継続。)

[3号機]・12/6 10:00~12/7 8:54 原子炉注水の信頼性向上の一環として、3号機復水貯蔵タンクを利用した1~3号機原子炉注水設備を構築する予定であるが、同タンク内の残水の塩分濃度を測定したところ、塩分濃度が高いことが判明。塩分濃度を下げるため同タンクの残水を減らした上で給水することとした。給水に先立ち、同タンクから同号機タービン建屋地下への残水の移送を実施。

12/7 9:19頃 同タンク内に水張りを開始。その後、同タンクにつながっているホースの接続部より水が漏れいしていることを確認(約5L)、9:52頃、水張りを停止し、水の漏れいが停止していることを確認。

12/9 9:05 当該ホースの交換を終了し、水張りを再開。
9:25 水張りラインの漏れい確認を終了。

・12/9 10:13 原子炉への注水量について、注水量の減少が確認されたため、給水系からの注水量を約 2.0m³/h から約 2.2 m³/h、炉心スプレイ系からの注水量を約 6.2 m³/h から約 6.1 m³/h へ調整。

[6号機]・12/9 10:32 6号機残留熱除去海水系ポンプ(C)の流量に低下傾向がみられたため、残留熱除去系(A系)による原子炉の冷却を停止した後、残留熱除去海水系ポンプ(C)を停止。その後、残留熱除去海水系ポンプ(C)を再起動し、当該ポンプが所定の性能にほぼ復帰したことを確認したため、11:23 残留熱除去系(A系)による原子炉の冷却を再開。本停止に伴い、原子炉水温は 26.6 から 27.5 へ一時的に上昇。

[4号機][5号機]

特に変化なし

<その他>

・10/7~ 伐採木の自然発火防止や粉塵の飛散防止を目的として、5,6号機滞留水浄化の水を利用し、散水を継続実施中。

以上